

西洋建築史第8回

ルネサンス2ー新旧の様式の相克

中島 智章

序.ゴシック建築とルネサンス建築の衝突

- イタリア遠征の衝撃とゴシックの伝統→イタリア人芸術家たちと現地の石工たち(Gilles LE BRETON)
Charles VIIIのイタリア遠征(1494)→ルネサンス建築や美術に触れる
- 帰国した王侯貴族が自らの城館に新様式を少しずつ導入
アンボワーズ
Amboise枢機卿のガイヨン城館、Louis XIIのアンボワーズ城館、ブロワ城館

1.石工たちの試行錯誤ーブロワ城館のゴシックとルネサンスー

- ビュリー城館(1511-24)→châteauおよびhôtelの平面形式の成立=cour d'honneur→corps-de-logis+aile→jardin
- ロワール河畔のchâteau群←「フランスの庭」
シュノンソー城館(1515-22)→François I^{er}時代に建設→Henri II妃Catherine de Medicisが後に拡張
アゼ・ル・リドー城館(1518-25)→基本はゴシック様式の城塞建築だが、古典主義的要素も…
ヴィランドリー城館(～1536)→中世の天守塔+オーダー付き柱廊中庭、水平要素の勝るファサードはルネサンス的
シャンボール城館(1519～)→François I^{er}が築かせた16世紀フランス最大の城館建築
- フォンテーヌブロー城館(1528-40):LE BRETONによる黄金門、白馬の前庭→対称性を目指しつつ、微妙に非対称
- ブロワ城館(1515-24):中世の城館(正門向かって右側のホール)を元に増築を繰り返す
Louis XII時代の城館→Louis XIIの紋章はりねずみ 煉瓦を用いたLouis XII棟 ゴシック様式の礼拝堂も
François I^{er}時代の城館→François I^{er}の紋章サラマンデル(火トカゲ)
螺旋階段を備えたFrançois I^{er}棟(螺旋階段事態はゴシック的ヴォキャブラリー)
一方ではルネサンス風の三層構成+ピラスター(付柱)とエンタブレチュア(みたいな水平帯)
- ANDROUET DU CERCEAU, Jacques(1549-84): *Les plus excellents bastiments de France*, 1576, 1579.
→16世紀のフランスの城館の当時の姿を伝えてくれる建築図面集(その姿を大幅に変えたもの、現存しないものも含む)

2.御雇い外国人たちの本格的ルネサンス建築ーフォンテーヌブロー派の活躍ー

- Sebastiano SERLIO(1475-1554)設計→1540年からフランスに滞在した **Tutte l'opere d'architettura*も執筆
アンシー・ル・フラン城館→正確なトスカナ式オーダー+正方形中庭にイタリア風ポルティコ+双子柱(間にニッチあり)
- フォンテーヌブロー城館(1528-40)→フォンテーヌブロー派=イタリアからイタリア人芸術家を招聘
イル・ロッセ・フィオレンティーノ
Il Rosso Fiorentino→François I^{er}のギャラリー
フランチェスコ・プリマティッチョ
Francesco PRIMATICCIO(1505-70)→舞踏の間の壁画など
壮大な外部階段を持つプリマティッチョ棟:1層目を基壇仕上げ+2層目にトスカナ式オーダー+かなり正確な対称性

3.古典主義の浸透とフランス人建築家たちーエクーアン城館ー

- Pierre LESCOT(1500/15-78)
ルーヴル城塞のdonjonの撤去→正方形中庭(クール・カレ)の整備
LESCOT棟:正方形中庭の西面にルネサンス様式の城館を建設(1546～)
コリント式オーダー+コンポジット式オーダー+アティック(屋階)=彫刻家Jean GOUJONの浅浮彫の3層構成
1階には舞踏の間:GOUJONの手になるカリアティード(カリュアティデス、女身柱)4本で支えられた楽士席のバルコニー

- Philibert de L'ORME(1510/15-70):アネ城館(1547~)、テュイルリー宮殿 *Architecture, 1567(全9巻)も執筆
De L'ORME+ピエール・ボンタンのFrançois I^{er}廟:イオニア式オーダーを使用+凱旋門モチーフ
- Jean BULLANT(1520/25-78):エクーアン城館(1555頃)、シャンティイの小城館(1560頃)
*エクーアン城館:大元帥(connétable)たるAnne de Montmorencyの居城
1538年頃にピエール・ダシュロンによって西棟と南棟が着工→少なくともBULLANTの関与はない→1553年から関与か
『5種の円柱の方法の建築総則』
ローマ留学(1541-43)←著書Regle générale d'architecture des cinq manières de colonnes, 1564, 1568の序文の情報
- *東棟入口(3層構成)←フォンテーヌブローの黄金門←De L'ORMEのアネ城館←ブロワ城館Louis XII棟の国王騎馬像
ドリス式オーダー+イオニア式オーダー+テルメ柱(男性の上半身+逆さや型の下半分)という3層構成
- *南棟中庭側ファサードの中央部分→パンテオンのコリント式列柱から着想←ローマ留学中に自ら実測したと言われる
→実施されたものとしてはフランス初のジャイアント・オーダー(大オーダー)

4.フランス・ルネサンス建築の完成ーブロワ城館オルレアン棟ー

- 16世紀後半のフランスは宗教戦争で荒廃→ブルボン家初代Henri IV(在位1589-1610)によって収束
アンリ4世
- Salomon de BROSSE(1571-1626)
*リュクスサンプール宮殿(1613~):トスカナ式、ドリス式、イオニア式の三層構成
トスカナ式オーダー=トスカナ地方(エトルリア)に起源を持つといわれる→フィレンツェ出身のMarie de Médicisの宮殿
- *サン・ジェルヴェ教会堂(1616-21):ドリス式、イオニア式、コリント式の三層構成
- Jacques LE MERCIER(1585-1654)
*ルーヴル宮殿クール・カレ拡張←LESCOT棟のデザインを踏襲+西棟中央に時計のパヴィリオン(1624-25~)
→最上層にキャリアティッド(女身柱)のペアを4対使用←2階のコンポジット式の上に重ねることのできるオーダーはない
- François MANSART(1598-1666)
*メゾン・ラフィット(1642-50):ドリス式、イオニア式の二層構成+フランス風の勾配のきつい屋根(マンサード屋根ではない)
前庭側、庭園側ファサード中央部のみドリス式、イオニア式、コリント式の三層構成←De L'ORME、BULLANTの影響
- *ブロワ城館オルレアン棟(1635-38):Louis XIIIの王弟Gaston d'Orléans(オルレアン公ガストン)の居城として増改築
ガストン・ドルレアン
ドリス式、イオニア式、コリント式の三層構成→双子柱を使用+第1層は両前方に湾曲しつつ迫り出してくるデザイン

5.ルネサンス建築の伝播ーアウグスブルク市庁舎ー

- スペイン王国:新大陸の富+ブルゴニー公国の遺産→「太陽の沈まぬ帝国」=Carlos I, Felipe II治世下の建築
カルロス1世 フェリペ2世
Pedro MACHUCA: Palacio de Carlos V(1527-92、円形中庭:1530頃、正面下階:1551-63、正面上階:1586-92)
→グラナダ城塞内のアルハンブラ宮殿(14世紀に最盛期を迎えたナスル朝(1232-1492)の栄華)の前に建設
- Juan Bautista des TOLEDO+Juan de HERRERA: エル・エスコリアル(1562-82)←Felipe IIの隠居所
- ハプスブルク家領低地地方(ブルゴニー公国の遺産)=Carlos IとFelipe IIの生地
リエージュのサン・ジャック参事会聖堂、ブルッへの記録保存所(1535-37)、アントウェルペン市庁舎(1561-65)
- オランダ→レイデン市庁舎正面(1597-1603)、マウリッツ・ハイス(1633-35)、アムステルダム市庁舎(1648-65)
- ドイツ語圏諸国→ランツフートの宮殿(1536~)、ハイデルベルク城オットー・ハインリヒ館(1556~)
アウグスブルク市庁舎(1615-20)、アンティカリウム(1569-71)、ケルン市庁舎ポルティコ(1569-73)
レジデンツのグロッテンホーフ(ミュンヘン、1581-86)、ザンクト・ミハエル聖堂(ミュンヘン、1583-97)
- イングランド王国→ハンプトン・コート宮殿(1515~)、ロングリート・ハウス(1572)、ハードウィック・ホール(1590-97)
イニゴ・ジョーンズ
Inigo JONES(1573-1652):ホワイト・ホール宮殿バンケットティング・ハウス(1619-25)、クイーンズ・ハウス(1616-35)
→イングランドにおけるパラディオ主義建築(ファサード中央に神殿モチーフを使用した建築)の代表的建築家